The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	稲垣足穂『一千一秒物語』の本文の変遷
Author(s)	白崎，真亜子
Citation	阪大近代文学研究. 2017, 14-15, p. 30-51
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67757
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

稲垣足穂『一千一秒物語』の本文の変遷

白崎 真亜子

はじめに

稲垣足穂は自分の作品に何度も改訂を行った作家である。そのため、一つの作品に複数のヴァリアントが存在する。『一千一秒物語』にも初版の刊行以後、何度も手が加えられ改訂が行われている。その改訂が行われた年代や収録された作品集、タイトルや収録数の変化などは後述する先学による様々な作品改題等によって示されてきた。しかし、改訂による作品内容の変化などの詳細な分析や、それによる読みの変化など具体的な研究は未だ不足している部分がある。本稿では、改めて本文異同の流れを追いどのような改訂が行われてきたのか、『一千一秒物語』の本文の変遷を明らかにする。

一、先行研究と問題の所在

これまでに示されてきた解題、作品年譜、作品収録の推移は次のとおりである。『稲垣足穂大全Ⅰ』(1)では作品年譜として作品収録と刊行順が次のように示された。

金星堂刊『一千一秒物語』初版
↓雑誌『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」
↓『現代日本文学全集85　大正小説集』収録「一千一秒物語」
↓『稲垣足穂全集（ユリイカ）』収録「一千一秒物語」
↓作家社刊『一千一秒物語』
↓『日本現代文学全集67新感覚派文学集』

このとき『稲垣足穂大全Ⅰ』収録が最終稿とされた。

次に『稲垣足穂全集』(2)の解題では以下の順で改訂されたと示された。

金星堂刊『一千一秒物語』初版
↓雑誌『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」
↓『稲垣足穂大全Ⅰ』収録「一千一秒物語」

改訂の内容は、『児童文學』掲載時に「新版一千一秒物語」と改題され小話も改訂されたとある。次いで『現代小説大系44モダニズム2』収録時に「A CHILDREN'S SONG」と「電燈の下をへんなものが通った話」の小話二篇が追加されたという。そして『稲垣足穂大全Ⅰ』で更に改訂されたと指摘された。加えて、作家社刊行の『一千一秒物語』覆刻版や英訳版『One Thousand and One Seconds Stories』についての記述もみられる。

次いで、『足穂拾遺物語』(3)では以下のように改訂されたと示された。

金星堂刊『一千一秒物語』初版
↓雑誌『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
↓雑誌『くいーん』掲載「一千一秒物語」
↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」
↓『稲垣足穂大全Ⅰ』収録「一千一秒物語」

『足穂拾遺物語』の「一千一秒物語」解題は高橋信行により執筆された。この解題では、改訂の流れに加えて作品の生成推移も示されている。改訂の内容としては、『児童文學』掲載時の「新版一千一秒物語」と『くいーん』掲載時の「一千一秒物語」は金星堂刊行版から一部の小話だけが改訂され掲載されたことで小話の収録数が異なっていること、『現代小説大系44モダニズム2』収録時に「A CHILDREN'S SONG」と「電燈の下をへんなものが通った話」の小話二篇が追加されたことで金星堂刊行時から収録数と収録順序が変化していることが指摘された。

一方で、高橋康雄(4)は神奈川近代文学館所収の草稿二種と金星堂初版・『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」・『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」・『現代日本文学全集85大正小説集』収録「一千一秒物語」・ユリイカ刊『稲垣足穂全集』収録「一千一秒物語」・作家社刊『一千一秒物語』・『日本現代文学全集67新感覚派文学集』収録「一千一秒物語」・『稲垣足穂大全Ⅰ』収録「一千一秒物語」・新潮文庫（昭和四四年刊）『一千一秒物語』・木馬舎刊『一千一秒物語』・透土社刊『一篇一冊双書　一千一秒物語』の十一テキストを取り上げ、『一千一秒物語』が収録された全集や作品集においてどれひとつ同一のものはないという見方を提示した。金星堂刊の初版から雑誌『児童文學』掲載の「新版一千一秒物語」の間で四十七篇の改訂がなされたこと、『現

代小説大系44モダニズム2』収録時に二篇増えて全七〇篇になったこと、草稿から初版では「お月様」が「お月さん」に変わり、小話「黒い箱」に出てくる「シャーロック・ホームズ」が「ハイド氏」となっていることを指摘した。両方とも金星堂版以降には草稿と同様に「お月様」、「シャーロック・ホームズ」となることも指摘した。また、それぞれの収録の際に細かな字句の改変がみられるため、定本としては足穂が生前最後の手を加えたであろう、昭和四十四年刊行の新潮文庫版を指定すべきだと述べている。

このように、これまで示されてきた解題ではその内容にばらつきがあり、調査範囲も不明確である。加えて、改訂の時点は示しながらも、改訂の内容については収録数や収録順序、語句についてのみで、具体的に小話のどの部分が改訂され、それにより小話がどのように変化したのかは示されていない。

また、石津尚美(5)は足穂の作品改訂の特徴として、修飾語の削減を指摘している。加えて、「過去のものほど、余分の飾りや、比喩が多くて〝まわりくどさ〟を自ら楽しんでいるようなところが見受けられる」とし、だがそれも「年がたつにつれ、だんだんと簡潔を好むようになっていく」と述べている。しかし、石津は足穂の改訂が「すべてがこうだったかというとそうではない」とし、論の中で改稿作の代表として「黄漠奇聞」を取り上げている。この論考は、足穂の作品全体に纏わる改訂の特徴を指摘するとともに、各作品それぞれにおける「改訂の特徴」が存在することを示唆している。したがって、『一千一秒物語』独自の改訂の特徴を見ていくことが必要だろう。

以上のように、先行研究において、改訂の大まかな流れは示されているが、具体的な指摘には欠けている。また、高橋康雄論にあるように、字句の改変のために『一千一秒物語』のテキストすべてが異なるとしても、足穂がそれらの改変にどこまで関わっていたか判断できない。そこで、先行研究で言及されているテキストに加え、現在管見の限り『一千一秒物語』が収録されているテキストを取り上げ、収録内容、収録数、収録順、タイトル、小話の内容、表記について見ていく。

二、調査文献

取り上げるテキストは次の通りである。(『』は単行本タイトル、「」は収録作品タイトル、【】は本文を参照した文献を示す。)

①金星堂『一千一秒物語』(一九二三)〈初版〉
②金星堂『一千一秒物語』(一九二六)〈第六版〉
③鳩居書房『児童文學』「新版一千一秒物語」(一九三五・十二〜一九三六・四/八)
④くいーん社『くいーん』第一巻第四号「一千一秒物

語」（一九四七・十）【青土社『足穂拾遺物語』（二〇〇八）参照】(6)

⑤河出書房『現代小説大系44モダニズム2』「一千一秒物語」（一九五〇）

⑥河出書房『現代小説大系46モダニズム』「一千一秒物語」（一九五六）

⑦筑摩書房『現代日本文学全集85大正小説集』「一千一秒物語」（一九五七）

⑧書肆ユリイカ『稲垣足穂全集1』「一千一秒物語」（一九五八）

⑨作家社『一千一秒物語』（一九六四）

⑩講談社『日本現代文学全集67新感覚派文学集』「一千一秒物語」（一九六八）

⑪現代思潮社『稲垣足穂大全Ⅰ』「一千一秒物語」（一九六九）

⑫新潮社・新潮文庫『一千一秒物語』「一千一秒物語」（一九六九）

⑬新潮社『稲垣足穂作品集 Works of Taruho』「一千一秒物語」（一九七〇）

⑭早川書房『世界SF全集34日本のSF（短編集）古典篇』「一千一秒物語（抄）」（一九七六）

⑮沖積舎『稲垣足穂作品集』「一千一秒物語」（一九八四）

⑯河出書房『ヰタ・マキニカリスⅠ』「一千一秒物語」（一九八六）

⑰木馬舎『一千一秒物語』
A「一千一秒物語」
B「異稿　一千一秒物語」（一九八七）

⑱透土社『イナガキ・タルホ一篇一冊物語双書　一千一秒物語』（一九九〇）

⑲筑摩書房・ちくま日本文学全集015『稲垣足穂』（一九九一）

⑳河出書房『新文芸読本　稲垣足穂』「一千一秒物語（抄）」（一九九三）

㉑河出書房『ヰタ・マキニカリスⅠ』「一千一秒物語」〈新装版〉（一九九八）

㉒筑摩書房『稲垣足穂全集1』「一千一秒物語」（二〇〇〇）

㉓ゆまに書房『編年体大正文学全集　第十二巻　大正十二年』「一千一秒物語」（二〇〇三）

㉔新潮社・新潮文庫『一千一秒物語』「一千一秒物語」（二〇〇四）

㉕筑摩書房『稲垣足穂コレクション1　一千一秒物語』「一千一秒物語」（二〇〇五）

㉖沖積舎『覆刻版一千一秒物語』（二〇〇七）

㉗筑摩書房・ちくま日本文学016『稲垣足穂』「一千一秒

物語」（二〇〇八）
㉘筑摩書房『日本幻想文学大全　幻妖の水脈』「一千一秒物語（抄）」（二〇一三）

以上二十八文献を調査する。なお、⑰木馬舎刊行の『一千一秒物語』はそれぞれA「一千一秒物語」とB「異稿　一千一秒物語」の二種類が収録されている。これ以降、言及するときはそれぞれを「⑰木馬舎A」、「⑰木馬舎B」と表記する。本文の引用はそれぞれの系統の中心となるテキストを使用し、「／」は改行を示す。表記はそのまま本文テキストに準じる。

三、異同による分類

分類のポイントを中表紙、前付、引用、序詞、終詞、小話など作品全体の収録内容に注目すれば次のように分類することが出来る。

金星堂刊行『一千一秒物語』初版
↓金星堂刊行『一千一秒物語』第六版
↓『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
↓『くいーん』掲載「一千一秒物語」
↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」
↓『稲垣足穂大全Ⅰ』収録「一千一秒物語」

調査内容を〈1〉小話の収録数〈2〉小話の収録順序〈3〉小話のタイトル〈4〉小話内の改訂と小話に関する観点に注目すると本文テキストは次のように分類できる。

金星堂刊行『一千一秒物語』初版
↓『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」
↓『くいーん』掲載「一千一秒物語」
↓『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」
↓『稲垣足穂大全Ⅰ』収録「一千一秒物語」

これは『足穂拾遺物語』解題で高橋が示したものと一致する。第六版は、小話に注目してみると、初版の内容と同一で表記も一致するため初版系統に含まれる。調査文献の分類を【表1】に、各系統ごとの小話の収録数、収録順、タイトルの改変を【表2】に表す。

四、系統ごとの特徴

（i）初版系統

①金星堂刊『一千一秒物語』初版の構成は本文以外に、中表紙のタイトル下部に「Modern Fairly Tales」という記述があり、次に佐藤春夫による「INTRODUCTION」として

「童話の天文学者――／アスフアルト街上の兒童心理学者――／ゼンマイ仕掛バネ仕掛の機械學者――／奇異なる官能的レツテルの蒐集家――／さうして、アラビヤンナイトの荒唐無稽　をまんまと一本のシガレツトのなかに　封じ込めたのだぜ？／誰が？／イナガキ・タルホがさ！」と足穂について書かれている。次いで、トリスタン・ツァラーの引用「芸術とはココア色の遊戯である」という文言、序詞「さあ御食事がすみましたら／こちらの方へ集つて下さい／いろんな煙草が取り揃へてあります／目録によつてどれでもお好み次第に……」があり、小話の目次である「CONTENTS」、前付の文句「星しげき今宵、コメツト・タルホは／敬愛する紳士淑女諸君に向つて／かくの如き數々の小話を語らうとする」があつて小話が始まる。終詞は「さよなら、よき夢をごらんなさい！／私の紳士淑女諸君！／又、明晩御目にかゝりませう」とある。前付の文句と終詞では「紳士淑女諸君」という聞き手の存在が描かれており、前付の文句であった「コメット・タルホ」という語り手は終詞における「私」だと考えられる。このように作品における語り手と想定される聞き手が小話の前に枠組みとして存在し、それを踏まえてそれぞれの小話が展開している。

巻末には「豫告／此の魔術的作家は更に香り高いエジプトの葉と斬新なインド花火の多量とを仕入れて一層精錬趣向を凝した巻煙草を製造して最近売出さうとしてゐる。何物が飛び出して諸君を驚かせるか一本取つてマツチを吸つた上の事である。」という次作の予告がある。収録されている小話は金星堂初版では全部で六十八篇である。

この①と全く同一のものとして⑨作家社刊行の『一千一秒物語』、㉖沖積舎刊行の『一千一秒物語』がある。両者は①金星堂版の復刻版であり、本文だけでなくその他の体裁もすべて同じである。今回使用した①には表紙カバーがなかったが、㉖沖積舎刊行の復刻版によって表紙カバーに付された「勧誘！！！／ココア色の芸術の葉を最も手軽なものにしやうとペーパーに巻いてみたのがこの新しい煙草である／どんな味がするか？　ためしに一本吸つて見給へ！」という文章が確認できた。カバーの文言はトリスタン・ツァラーの引用や序詞の文言を想起させるような「ココア色の芸術」や「シガレット」などの語句が見られる。

⑰木馬舎A『一千一秒物語』は①金星堂版の本文、トリスタン・ツァラーの引用、前付の文言は掲載されているが、佐藤春夫の「INTRUDUCTION」はなく、本文の表記は、仮名が新かなに改められている。表記において初版とは異なるテキストである。

⑱透土社『イナガキ・タルホ一篇一冊物語双書　一千一秒物語』はトリスタン・ツァラーの引用、前付きの文言、「CONTENTS」はあるが佐藤春夫の「INTRODUCTION」はない。また、この本独自の編集として「A GLIMPSE」と

題された「ある夜見えそめいていたおどろくべきもの　しかも次の瞬間にはシルウェットになってそこに行違っていた群衆でしかなかった」という引用文や小話「ポケツトの中の月」「何うして彼は煙草を吸うやうになつたか」「何うして彼は醉ひよりさめたか？」「霧に欺まされた話」「突き飛ばされた話」「友達がお月さんに変つた話」を部分引用したカラーページ等が挿入されている。小話の本文は金星堂刊行の初版と同じであるが、金星堂版ではルビが付されていない漢字にルビが付されているなど表記の面で異なっている。ルビに関しては、「油繪」に「あぶらえ」のように漢字そのままの読み方が付されているものと、「煙草」に「シガレット」のように付されているものがある。

㉓『編年体大正文学全集』収録の「一千一秒物語」はトリスタン・ツァラーの引用、序詞、終詞はあるものの佐藤春夫の「INTRUDUCTION」と「CONTENTS」は見られない。小話の内容は①金星堂版と同じだが、表記において例えば「歸」が「帰」のように新字体に改められている。

（ii）金星堂第六版

②金星堂第六版では①金星堂初版と比べて小話本文の内容に変更は見られなかった。一方で、中表紙の絵が変更され、タイトル下部の言葉が初版は「Modern Fairy Tales」であったのが、第六版では「Moonshine Tales」と変更された。「現代的な御伽噺」から「月光の物語」へと作品を示すフレーズが変更された。「現代的な」という新しさを冠していたのが、「月光」である月、ひいては天体に関するものを冠として付す点に、足穂の天体への傾倒が感じられる。また、「新しさ」よりも本作の主軸に「月」を中心に据える意図が生まれたのではないか。しかし、この変更が足穂自身によるものか出版元の金星堂によるものかは判断できない。中表紙のイラストが変更されたように、佐藤春夫の「INTRODUCTION」のページも初版とはデザインが異なり、トリスタン・ツァラーの引用文の入る位置などページの割り付けにおいても異なっている。巻末には稲垣足穂『星を売る店』、ロバートソン著、麻生義訳の『独逸文学史』、ラフカデオン著、今東光訳の『文學入門』の広告が入っている。

①金星堂初版との大きな違いとしては、序詞と終詞の削除が挙げられる。小話群の前後に作品の始まりと終わりをつくっていたのが削除されたことでその枠組みがなくなってしまっている。

（iii）児童文學版

③『児童文學』版では「新版一千一秒物語」と題され金星堂版六十八篇から四十七篇が掲載された。そのすべてが改訂され初版とは異なる小話の内容となっており、タイトルにおいても表記などの細かな改変もあれば、「停電の原因」から

「黄昏奇談」など大きく変化したものもある。この掲載時、序詞等は省かれた。小話の内容やタイトル共に、①金星堂版では「お月さん」であったのが「お月様」に直された。小話の掲載順も金星堂版単行本に収録されている順番とは異なり、【表2】において太枠で示したように、③『児童文學』掲載時のタイトルで「月のサーカス」から「散歩前」までの七篇の順序がばらばらになっている。

この「新版一千一秒物語」は雑誌③『児童文學』掲載時の目次では童話として載っている。また、『日本児童文学大辞典　第一巻』において「童話風に改めた二行から一〇行ほどの掌篇」(7)と説明されている。①金星堂初版と比較して、小話一篇における分量は大幅に削られている。

（.ⅳ）くいーん版

Ⅰ『くいーん』版では掲載された九篇のうち「a puzzle」「見て来たやうなことを云ふ人」「A HOLD-UP」「THE WEDDING CEREMONY」「月の客人」「土星が三つ出来た話」の六篇が金星堂版からの改訂である。このとき「MURMUR」から「a puzzle」にタイトルが改変される。「THERE'S NOTHING」「赤鉛筆の由来」の二篇は初版から③『児童文學』での改変に次いで改訂されている。そして「A CHILDREN'S SONG」一篇がこの時新しく追加された。また、初版で見られた序詞や文言はなく、序詞の代わりと思われる「さても夕餉果てし方々よ。　いざ共に集ひて　タルホ氏がすゝむうまき煙草を召されかし」という文言とフランス語で「Cet Astro-Magicien la confirmait des cigarettes avec Fantaisie de La Nuits-Arabique nouveaux.」(8)という文が付されている。④『くいーん』版は①金星堂版、③『児童文學』版で句読点が見られなかった本文中に句読点が付されている。これまで一マス空けることで語句や文章の区切りを表していたのが句読点を付すことで賄われている。しかし、まったく一マス空けがされなくなったわけではなく、例えば「見て来たやうなことを云ふ人」という小話の中にある会話文中では読点が使用されずに一マス空けて区切られている。このように一マス空けと句読点が混用されている。

（ⅴ）現代小説大系系44統

⑤『現代小説大系44モダニズム2』版では、本作収録において初版時の小話六十八篇にこの時新たに「電燈の下を変なものが通った話」と④『くいーん』版で加わった「A CHILDREN'S SONG」の二篇が追加された全七十篇の小話と序詞、終詞、「CONTENTS」で「一千一秒物語」が構成される。

本文の内容はこれまでの改訂に加えて新しく直されている。小話の順序は金星堂版に則っており、③『児童文學』掲載時から最初に戻った印象である。⑥『現代小説大系46モダ

ニズム』は⑤『現代小説大系44モダニズム2』の改版であり同一といえる。

⑦『現代日本文学全集85大正小説集』版の収録内容は『現代小説大系44モダニズム2』収録時と同じく、序詞、小話七十篇、終詞、「CONTENTS」であり、本文内容も同一であった。しかし、⑤『現代小説大系44モダニズム2』収録時に「ヅカ〳〵」「ハタ〳〵」というように表記されたものが「ヅカヅカ」「ハタハタ」のように書き換えられた。

⑧ユリイカ刊『稲垣足穂全集』では序詞、小話七十篇、終詞で構成される。序詞では「取りそろへてあります」と表記されていたのが「取り揃へてあります」と漢字表記され、最後「どれからなりとおためしください。」に句点が付されている。「ハタ〳〵」が「ハタハタ」、「木々」が「木木」と直され、漢字はすべて新字体に改められており、一部の漢字にルビが付されている。⑤『現代小説大系44モダニズム2』で改行されていたところが改行されずに一マス空けで文章が連続している。

⑩『日本現代文学全集67新感覚派文学集』版は⑤『現代小説大系44モダニズム2』版と内容は同一である。しかし、「ハタ〳〵」が「ハタハタ」、「木々」が「木木」などの表記、「突當りの大鏡」が「突當り大鏡」と誤りが確認できた。また、⑤『現代小説大系44モダニズム2』では改行されていたところが改行されずに、一マス空けのみで文章が連続している。

（vi）大全版系統

⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』ではこれまで歴史的仮名遣いで表記されていたものが現代仮名遣いに直されている。⑤『現代小説大系44モダニズム2』からの違いはこの仮名遣いの表記によるところが大きく、内容に関わる改訂はわずかであった。⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』版では序詞と小話七十篇と終詞で構成され「CONTENTS」はなくなった。序詞においては「皆さん」「取り揃えてあります」のように漢字表記され、小話中でも「聞いていると」「進んでいく」などこれまで平仮名で表記されていたものが漢字表記に変わっている。内容面では小話「星をひろった話」中の「光っているだけだったから」が「光っているだけだったので」になったり、小話「投石事件」において「ぼく」が逃げて行くところが「リンゴ畑」だったのが「花畠」になったりなどの改変が見られた。ストーリーラインそのものを変化させる改訂ではないが、語句レベルで細かな改訂を行い書き換えていることがわかる。

⑬『稲垣足穂作品集 Works of Taruho』は⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』と収録内容、表記、ルビにおいても一致している。⑮『稲垣足穂作品集』は⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』と収録内容として序詞、小話七十篇、終詞ともに同じである。表記も一マス空けの位置、改行の位置、ルビの振り方も一致している。

⑯『ヰタ・マキニカリスⅠ』は最終稿である⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』のテキストに準じたと記載されている。序詞、小話七十篇、終詞における表記やルビともに⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』と一致している。㉑『ヰタ・マキニカリスⅠ』は新装版であり、⑯『ヰタ・マキニカリスⅠ』と同一である。

⑰木馬舎Bは巻末付録として金星堂版の異稿として最終稿とされる⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』版を収録している。㉒『稲垣足穂全集1』は底本として⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』を使用している。そのため、収録内容も序詞、小話七十篇、終詞と『稲垣足穂大全Ⅰ』版と一致し、表記の面においても、一マス空けの位置、改行の位置、ルビの振り方も一致している。

⑳『新文芸読本　稲垣足穂』には一千一秒物語（抄）として「月から出た人」「赤鉛筆の由来」「お月様が三角になった話」の三篇が掲載されている。小話の内容、表記、ルビの振り方も『稲垣足穂大全Ⅰ』版と一致している。

⑭『世界SF全集34日本のSF（短編集）古典篇』は「一千一秒物語（抄）」として収録されている。『一千一秒物語』のうち序詞、「月から出た人」から「突き飛ばされた話」まで順に十八篇が掲載されている。小話内容は『稲垣足穂大全Ⅰ』版と同一ながら、「月から出た人」と「投石事件」の二篇の小話に一部句読点が付されている。④『くいーん』版以降のテキストで句読点が付されているものはなく、また小話の中の一マス空けの所すべてに句読点が付されているわけでもないため、その意図は不明である。底本等の記載は見られず、初出である金星堂刊行の初版が作品解説に記載されている。小話の内容から⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』以降を参考にしているのはわかる。足穂の存命中の刊行であるが、足穂本人がどこまで関わっていたかは判じかねる。これまでの改訂の流れでは句読点を排してきたが、このテキストで改めて句読点を用いるようになったとすれば、特異なテキストといえるだろう。

⑫新潮文庫は『稲垣足穂大全Ⅰ』とは内容は同一ながらルビの打ち方が異なっている。⑲ちくま文庫015は⑫新潮文庫のテキストを使用している。㉗ちくま文庫016は⑲ちくま文庫015の再刊行である。㉔新潮文庫は⑫新潮文庫の改版である。小話「投石事件」内の「大変な権幕でどなった」の部分が「剣幕」と表記されており異なっている。この部分は⑲新潮文庫、⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』のテキストでは「権幕」と表記されている。

㉕『稲垣足穂コレクション1』は⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』を底本としている。しかし、完全に一致はしておらず、小話「A MEMORY」において⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』では「え？　どうしたのが」となっている箇所が「え？　どうしたのか」となっている。この部分は⑤『現代小説大系44モダニズム2』までは「え？　どうしたのか」であったため混同されたか出版側のミスと思われる。㉘『幻妖の水脈』は㉕『稲垣足穂コレクション1』を底本としている。『一千一秒物語』

より」と題され「月から出た人」「A MEMORY」「黒猫のしっぽを切った話」「ポケットの中の月」「月光密造者」「A TWILIGHT EPISODE」「コーモリの家」「A MOONSHINE」の八篇が収録されている。㉕『稲垣足穂コレクションⅠ』と同様に「A MEMORY」にミスが確認できる。足穂の死後に刊行されたものは⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』の本文に則っているが各テキストで異なっている。こうした違いは、出版社側の裁量によるものといえる。

このように、テキスト群を小話に注目して系統分けを行ったが、金星堂刊行の『一千一秒物語』初版、『現代小説大系44モダニズム2』、『稲垣足穂大全Ⅰ』などそれぞれを底本としながらも、収録や刊行の際に表記が異なっている。時代が下る中で歴史的仮名遣い、旧字体は現行の表記に書き直されているが、漢字や送り仮名、拗音や促音の表記にはばらつきがあり、「言う」と「云う」など同一のテキスト内でも統一がされていない。また、改行や一マス空ける位置の違い、句読点が付されているなどの違いで分けることができる。足穂は自身の作品について「句読点を排したのはドライな感じを出すため」(9)と振り返っており、句読点を使用せずに一マス空けや改行を意識的に用いていたと思われる。実際、金星堂版では前付の文句、終詞と一部の小話以外にテキスト内に句読点は見られず、文や語句の区切りは一マス空白を開けることで行われている。また、終詞、小話からはその後の媒体で読点が消えている。最終稿以降での内容の変更は見られないが、表記の点では異同がみられる。最終稿の後も一九七七年まで足穂は存命ではあったが、こうした表記のばらつきが足穂自身の意図によるか出版社による変更かは不明なため、ここで指摘するだけにとどめる。

五、改訂の特徴

次に、小話の内容に関係する改訂に注目したい。改訂の度に、一つ一つの小話はどのような変化したのだろうか。そのことを、金星堂刊行『一千一秒物語』初版→『児童文學』掲載「新版一千一秒物語」→『くいーん』掲載「一千一秒物語」→『現代小説大系44モダニズム2』収録「一千一秒物語」→『稲垣足穂大全Ⅰ』収録「一千一秒物語」の五つすべてに掲載、収録、改訂がされている小話「THERE IS NOTHING」を例に確認する。

「THERE IS NOTHING」〈金星堂版〉

A氏の説によると　それは／＼たいへんな　何う云ついいか　そりや素的な　ビツクリするやうな事があります　それでしまひ！　その事と云ふのは

「THERE'S NOTHING」〈児童文學版〉

A氏の説によると　それは何う云つていゝか判らぬ事が

あります　それでおしまひ！

「THERE'S NOTHING」〈くいーん版〉

A氏の説によると、それは〳〵たいへんな、どう云つていゝかびつくりするやうな、ことがあります。それでおしまひ。

「IT'S NOTHING ELSE」〈現代小説版〉

A氏の説によるとそれは〳〵たいへんな　どう申してよいか　びつくりするやうなことがあります　それでおしまひ

「IT'S NOTHING ELSE」〈大全版〉

A氏の説によるとそれはそれはたいへんな　どう申してよいか　びつくりするようなことがあります　それでおしまい

金星堂版から児童文學版では「それはそれは」というくりかえしによる強調や「たいへんな」や「素的な」、「ビツクリするやうな」といった形容する描写が削除されている。また、末尾のある種読者に小話の続きを期待させるような「その事と云ふのは」という締め方が削除されている。「それでしまひ！」という文章の終結を示しながら、「その事と云ふのは」と続くのは、いわば蛇足であり、言いかけただけでその先に何もないところからも、余分な表現としての意識があったのだろう。このように金星堂版から児童文學版ではより簡潔な文章になっている。

また、タイトルが「THERE IS NOTHING」から「THERE'S NOTHING」へと改変されている。どちらも意味としては「そこにはないもない」となる。金星堂版から児童文學版で小話の本文中には削除された表現があるにもかかわらず、タイトルは短縮形にされただけだった。そのため、タイトル自体の意味もそこに示される小話の主題も変わらなかったと考えられる。「何う云つていゝか判らぬ事」が「ある」ことが重要であり、タイトルを鑑みれば、その「何う云つていゝか判らぬ」「A氏の説」には何も中身がないのだろう。

児童文學版からくいーん版では、一マス開けの代わりに句読点が用いられている。句読点の位置と一マス開けの位置は必ずしも一致しておらず、「THERE'S NOTHING」の場合、句読点の位置は児童文學版よりも金星堂版と読点を打つ個所が近い。また、児童文學版で削除された、「それはそれは」という強調や「びつくりするやうな」という描写が復活している。形容する描写が増えたことで、A氏の説がどのようなものなのか勿体ぶるように表現を連ねていく感じも同時に復活している。

くいーん版から現代小説版では句読点が排され、文や語句の区切りには金星堂版と児童文學版と同じように一マス開けが用いられている。ここでも、句読点の位置と一マス開けの位置は必ずしも同じではない。表現においても変更がされているが、ストーリーラインを変えてしまうような大きな変更ではなく、「云う」と「申す」のように語句レベルでの改訂が見られる。

また、この改訂によってタイトルが改変された。「THERE'S NOTHING」が「IT'S NOTHING ELSE」に変わった。それにより意味が変わってしまっている。「そこには何もない」から「他には何もない」へと変わっている。「THERE'S NOTHING」というタイトルで「そこには何もない」と示していたのに反して、「IT'S NOTHING ELSE」というタイトルで「他には何もない」と示すことは完全な「無」を示していたのに対して、唯一の「有」を示すことである。「else」という「他」の存在を否定するということは、「他」に対する「自」存在があるということだ。小話本文の内容は改訂されても大きな変化はなかったが、タイトルでは全く反対のことを示している。それにより、「A氏の説」の捉え方も変わってしまうだろう。「他」を示されることで、「たいへんな」「びっくりするような」という修飾が「A氏の説」に内包される特徴となり、「A氏の説」を説明し形容する言葉になっている。むしろ、これらの修飾に加えて「どう申してよいか（わからない）」という言葉以外に「A氏の説」を表す「他」の言葉はない、と解釈できる。タイトルの改変が小話の読解に影響を与えている一例だろう。

現代小説版から大全版では、歴史的仮名遣いから現行の表記へと書き直されている。また、小話によっては一マス開けや改行の位置の変更、語句レベルでの表現の変更が見られる。ニュアンスの違いなど、内容に直接大きく関与しないが表現という点での細かな書き換えが多い。

石津論で指摘された足穂の作品全体に見える改訂の傾向として、修飾語の削除という傾向は見える。だが「一千一秒物語」の改訂の特徴としては、単純に修飾語の削除というだけでなく、接続詞の排除や動作主や目的語の排除もあり、文同士の繋がりがわかりづらくなっている。改訂を繰り返す中で復活する表現もある。また、小話「ハーモニカを盗まれた話」のように大幅に文章を削除した改訂もある。この「ハーモニカを盗まれた話」では主人公である「俺」が「流星」とぶつかった瞬間を思い出し「流星」が何をするつもりかを考えている部分が削除された。「俺」が部屋に戻りハーモニカが盗まれたことに気づくまでの思考部分が削除されることで、部屋に戻るに至った経緯がわからないまま「俺」の行動のみが示される。「俺」がどのような人物かもわからなくなった。このように小話の内容だけでなく、その主人公のキャラクターなどを大きく変化させる改訂もある。

金星堂版からの改訂では語句や言い回しを書き換えてもいるが、金星堂版の表現を削る改訂が多くみられる。しかし、その後の児童文學版、くいーん版では特定の小話のみが改訂される。現代小説版で小話すべてが収録され改訂される。その改訂の傾向としては次の四点があげられる。

①児童文學版の内容をもとに語句の書き換えや追加、削除がされた場合
②児童文學版で削られた金星堂版の表現が復活して用いられている場合
③くいーん版の内容をもとに語句の書き換えや追加、削除がされている場合
④くいーん版で削られた金星堂版の表現が復活して用いられている場合

つまり、改訂が進むにつれて新しい表現に変えている場合と、金星堂版の表現に戻している場合とがある。初版の単行本から次の改訂では雑誌媒体、しかも『児童文學』と『くいーん』という一般的な文学雑誌への掲載ではなかったということも改訂と関係しているのかもしれない。

更に、金星堂版からの改訂によって、冒頭に「夜・夕方・真夜中」を設定する言葉が挿入された。金星堂版の時点で六十八篇あるほとんどのストーリーの舞台が夜であったが、改訂によってよりその設定が統一され、大全版では途中で加わった二編も含めた七十篇中六十三篇のストーリーが夜、夕方、真夜中という時間軸の中で起こる。また、単純に「夜」ではなく、「或夜」「或晩」というように曖昧で抽象的な時間設定がされている。大全版では七十篇中三十篇がこのような曖昧な設定の中で話が始まる。

また、小話「ある晩倉庫のかげで聞いた話」では金星堂版では主人公で語り手と思われる人物は「僕」だったのが現代小説版では「自分」と改変される。改めてテキストを見ていくと、「僕」から「自分」に変えられているものや、元々「自分」が出てくる小話であっても動作主として「自分」という言葉が付け加えられているものもある。それと共に、『一千一秒物語』内では金星堂版から大全版まで変わらず「僕」、「俺」、「私」などの「自分」以外の一人称の小話もある。「自分」以外にも小話における主人公や語り手が存在する。小話の多くは一人称視点の語りである。しかし、他の一人称表記と比べて小話内の一人称の内訳は「自分」：三十四例、「俺」：「ハーモニカを盗まれた話」一例、「わたし」：「AMEMORY」「ニューヨークから帰ってきた人の話」「どうして彼は喫煙家になったか」三例、「ぼく」：「投石事件」「A MOON SHINE」二例、無表記：二〇例、会話：「A PUZZLE」一例、三人称：「THE WEDDING CEREMONY」など九例であり、約半分が「自分」で表され、次いで多いのが無表

記の一人称語りである。

一方で、改訂は小話だけでなく、序詞や終詞、前付や中表紙の文言にもみられる。金星堂版では前付の文句で「コメツト・タルホ」という存在が「語る」という体裁で本作が始まり次ページから小話が展開されていく。小話同士に関連性がなくても、語り手である「コメツト・タルホ」という存在が小話同士を結び付け、「コメツト・タルホ」に語られる小話であり、小話の語り手や主人公を「コメツト・タルホ」と置き換えて読むことができたのではないか。初版では六十八の小話を内容や作品テーマなど関係なく繋ぐ「コメツト・タルホ」という語り手がいてその存在によって小話群は結びつけられていたが、この文言が削除され収録されなくなることで、金星堂版以降の本文ではそうした作品を貫く存在はなく、小話同士の内容にも明確な連続性はないため、七十の小話はそれぞれが単独で存在するものとしてあるのではないか。しかし、先に述べたように改訂により小話同士に同じような言葉が付加され、個別に切り離されたというよりは関連性を持たせているようにも思える。改訂の中で小話同士に統一した改訂が加えられていることがわかる。改訂の傾向として削除されていくことが多い一方で、わざわざ付加した語句や改変した語句がある。それが小話単独のものではなく、複数の小話にまたがっていく場合、前文の文句のように作品全体にまたがってその構成や読みに影響を与えるのではないだろうか。

山本貴光[10]は断章同士の類似性によって、「それらの断章が明示的なつながりを持たないにもかかわらず、読み手はその類似性によって断章同士を連接する」と語句やモチーフで繋ぐことで小話同士に連関性が生まれることを指摘している。時間軸の設定や人称表現が統一されることによって、読み手がそれぞれ独立している小話同士を関連付けてそれぞれに特徴や関連性を見出すことに繋がるのではないか。「今宵、コメット・タルホが語る」という文言が消えることで、「コメット・タルホ」が自ら語る必要はなく、それぞれの小話は「どれからなりとお試しください」と序詞にある様に、その読み方は読み手側に委ねられる。前付の文句が付されていた初版や第六版においては、「コメット・タルホが語る」ことでそれぞれが独立して存在する小話を『一千一秒物語』という一つの作品に統一していたと考えられる。小話において、語り手や主人公たちの正体は明らかにされず、「自分」「僕」「俺」などの一人称や具体的な人称表記はないが、「見ていると」などの語り手の視線や動き、思考を感じさせる表現が用いられている。そのような不明確な存在である主人公や語り手の正体として「コメット・タルホ」がいた。小話すべてが「コメット・タルホ」の語ること、御伽話の語り手として、一人の語り手という共通の存在によってばらばらの複数の話が一つの『一千一秒物語』に集約されていたのではないか。しかし、この前付の文句は児童文學版以降削除される。語り

手の存在はなくなり、小話の主人公を語り手もわからないまま、「自分」という存在のまま小話を読むことになる。

このように幾度の改訂によって『一千一秒物語』は収録されている小話だけでなく、序詞や終詞、前付の文言など作品を構成する全体に変更が加えられてきた。本稿では本文異同の流れを整理し改訂の特徴を具体的に明らかにした。今後、そのような改訂の特徴を踏まえた上で小話それぞれの読みの変化、『一千一秒物語』という作品全体を通しての改訂による変化、そして、それらがどのように受容できるのかを見ていく必要があるだろう。

注

（1）『稲垣足穂大全Ⅰ』（一九六九・現代思潮社）巻末に松村實による作品年譜を掲載。

（2）『稲垣足穂全集』（二〇〇〇・筑摩書房）萩原幸子編

（3）『足穂拾遺物語』（二〇〇八・青土社）『くいーん』版「一千一秒物語」が収録される。高橋信行による解題・校異が示される。

（4）高橋康雄「稲垣足穂『一千一秒物語』草稿を読む」『神奈川近代文学館年誌第53号』（一九九六）

（5）石津尚美「タルホと改稿」（「紫苑」一九八六・三）

（6）雑誌『くいーん』を実際に確認することができないため、『足穂拾遺物語』掲載のテキストを使用する。

（7）『日本児童文学大辞典 第一巻』大日本図書株式会社（一九九三）pp. 72-73 種田和加子執筆

（8）『足穂拾遺物語』解題より、仏文の和訳として「この天体魔術師が、新奇なアラビアの夜のファンタジーをシガレットに仕立てました」とある。

（9）「病院の料理番人の文学」（『作家』一九六三・十一）

（10）山本貴光「計算論的、足穂的――タルホ・エンジン仕様書――」（『ユリイカ』二〇〇六・九）

（しらさきまあこ／本学大学院博士前期課程）

【表1】

系統	初版系統	説系統	小説44代系	現代大系	稲垣穂大全系統		
	①金星堂・初版				⑪『稲垣足穂大全Ⅰ』		
	②金星堂・第六版						
	③『児童文學』						
	④『くいーん』						
		⑤『現代小説大系44モダニズム2』					
	⑥『現代小説大系46モダニズム』						
	⑦『現代日本文学全集85大正小説』						
	⑧書肆ユリイカ『稲垣足穂全集Ⅰ』						
	⑨作家社			⑩『日本現代文学全集67新感覚派文学集』			
	⑰木馬舎A						
	⑱透土社						
	㉓編年体大正文学全集第十二巻						
	㉖沖積舎						
					⑫新潮文庫		
					⑬『稲垣足穂作品集 Works of Taruho』		
					⑭『世界SF全集34日本のSF（短編集）古典篇』		
					⑮沖積舎『稲垣足穂作品集』		
					⑯『ヰタ・マキニカリスⅠ』		
					⑰木馬舎B		
					⑳『新文芸読本 稲垣足穂』		
					㉒『稲垣足穂全集1』		
					㉕『稲垣足穂コレクション1』		
					㉔新潮文庫	⑲ちくま日本文学全集015	
						㉗ちくま日本文学016	
					㉑『ヰタ・マキニカリスⅠ』新装版		
					㉔新潮文庫		
							㉘『幻妖の水脈』

【表2】

金星堂「一千一秒物語」（初版）	『児童文學』「新版一千一秒物語」	『くいーん』「一千一秒物語」	河出書房『現代小説大系44モダニズム2』	現代思潮社『稲垣足穂大全第1巻』（最終稿）
表紙				
INTRODUNTION				
引用				
		仏文		
序詞		序詞	序詞	序詞
文句				
月から出た人	月から出た人		月から出た人	月から出た人
星をひろつた話	星をひろつた話		星をひろつた話	星をひろつた話
投石事件	投石事件		投石事件	投石事件
流星と格闘した話	流星と格闘した話		流星と格闘した話	流星と格闘した話
ハモニカを盗まれた話	ハーモニカを盗まれた話		ハーモニカを盗まれた話	ハーモニカを盗まれた話
或夜倉庫の蔭で聞いた話	或夜倉庫のかげで聞いた話		ある夜倉庫のかげで聞いた話	ある夜倉庫のかげで聞いた話
月とシガレツト	月とシガレツト		月とシガレット	月とシガレット
お月さんと喧嘩をした話	お月様と喧嘩した話		お月様とけんかした話	お月様とけんかした話
思ひ出			A MEMMORY	A MEMORY
MURMUR		A puzzle	A PUZZLE	A PUZZLE
		THERE'S NOTHING	A CHILDREN'S SONG	A CHILDREN'S SONG
月光鬼語	月光鬼語		月光鬼語	月光鬼語

或る晩の出来事	或晩の出来事		ある晩の出来事	ある晩の出来事
THERE IS NOTHING	THERE'S NOTHING	A CHILDREN'S SONG	IT'S NOTHING ELSE	IT'S NOTHING ELSE
SOMETHING BLACK	SOMETHING BLACK		SOMETHING BLACK	SOMETHING BLACK
黒猫の尾を切つた話	黒猫の尾を切つた話		黒猫のしっぽを切った話	黒猫のしっぽを切った話
突き飛ばされた話	突き飛ばされた話		突きとばされた話	突きとばされた話
はね飛ばされた話	はね飛ばされた話		はねとばされた話	はねとばされた話
押し出された話	押し出された話		押し出された話	押し出された話
キツスした人	キスした人		キスした人	キスした人
霧に欺まされた話	霧に欺された話		霧にだまされた話	霧にだまされた話
ポケツトの月	ポケツトの月		ポケットの中の月	ポケットの中の月
嘆いて歸つた者	嘆いて歸つた者		なげいて歸つた者	なげいて帰った者
雨を撃ち止めた話	雨を撃ち止めた話		雨を射ち止めた話	雨を射ち止めた話
月光密造者	月光密造者		月光密造者	月光密造者
彗星を取りに行つた話	箒星を取りに行つた話		箒星を獲りに行つた話	箒星を獲りに行った話
星を食べた話	星を食べた話		星をたべた話	星を食べた話
AN AFAIRE OF THE CONCERT	AFAIRE OF CONCERT		AN INCIDENT IN THE CONCERT	AN INCIDENT IN THE CONCERT
TOUR DE CAT NOIR	TOUR DE CAT NOIR		TOUR DU CHAT NOIR	TOUR DU CHAT- NOIR
星か？ 花火か？	星？ 花火？		星？ 花火？	星？ 花火？
自分を落してしまつた話	自分を落してしまつた話		ガス燈とつかみ合ひをした話	ガス燈とつかみ合いをした話

瓦斯燈とつかみ合ひをした話			自分を落してしまつた話	自分を落してしまった話
星でパンをこしらへた話	星でパンを拵へた話		星でパンをこしらへた話	星でパンをこしらえた話
星に襲はれた話	星に襲はれた話		星におそはれた話	星におそわれた話
果して月へ行けたか？	月へ行けたか		はたして月へ行けたか？	はたして月へ行けたか？
水道へ突き落された話	水道へ突き落された話		水道へ突き落された話	水道へ突き落された話
月を上げる人	月を上げる人		月をあげる人	月をあげる人
MAN OF THE MOON	MAN OF THE MOON		THE MOONMAN	THE MOONMAN
コヽアの悪戯	ココアの悪戯		ココアのいたづら	ココアのいたずら
			電燈の下をへんなものが通つた話	電燈の下をへんなものが通った話
月のサーカス	月のサーカス		月のサーカス	月のサーカス
MOON RIDERS	蝙蝠の家		THE MOONRIDERS	THE MOONRIDERS
煙突から投げこまれた話	THE MOON RIDERS		煙突から投げこまれた話	煙突から投げこまれた話
停電の原因	煙突から投げ込まれた話		A TWILIGHT EPISODE	A TWILIGHT EPISODE
黒猫を撃ち落した話	黄昏奇談		黒猫を射ち落した話	黒猫を射ち落した話
蝙蝠の家	黒猫を撃ち落した話		コーモリの家	コーモリの家
散歩前の小話	散歩前		散歩前	散歩前
THE BLACK COMET CLUB			THE BLACK COMET CLUB	THE BLACK COMET CLUB

友達がお月さんに變つた話			友だちがお月様に變つた話	友だちがお月様に変った話
見て来たやうなことを云ふ人		見て来たやうなことを云ふ人	見てきたやうなことを言ふ人	見てきたようなことを云う人
フクロトンボ			AN INCIDENT AT A STREET-CORNER	AN INCIDENT AT A STREET-CORNER
辻強盗		A HOLD-UP	A HOLD UP	A HOLD- UP
銀河からの手紙			銀河からの手紙	銀河からの手紙
THE WEDDING		THE WEDDING CEREMONY	THE WEDDING CELEMONY	THE WEDDING CEREMONY
自分によく似た人			自分によく似た人	自分によく似た人
眞夜中の訪問者			眞夜中の訪問者	真夜中の訪問者
ニューヨークから歸つて来た人の話			ニュウヨークから歸つてきた人の話	ニュウヨークから帰ってきた人の話
月の客人		月の客人	月の客人	月の客人
何うして彼は醉よりさめたか？	どうして醉より醒めたか？		どうして醉よりさめたか？	どうして酔いよりさめたか？
THE GIANT-BIRD	A GIANT BIRD		A ROC ON A PAVEMENT	A ROC ON A PAVEMENT
黒い箱			黒い箱	黒い箱
月夜のプロジツト	月夜のプロージツト		月夜のプロジット	月夜のプロージット
赤鉛筆の由来	赤エンピツの由来	赤鉛筆の由来	赤鉛筆の由来	赤鉛筆の由来
土星が三つ出来た話		土星が三つ出来た話	土星が三つ出来た話	土星が三つ出来た話

お月さんを食べた話			お月様をたべた話	お月様をたべた話
お月さんが三角になつた話			お月様が三角になつた話	お月様が三角になつた話
星と無頼漢	星と無頼漢		星と無頼漢	星と無頼漢
果してビール瓶の中にホーキ星が入つてゐたか？			はたしてビールびんの中に箒星がはいつてゐたか？	はたしてビールびんの中に箒星がはいつていたか？
何うして彼は煙草を吸ふやうになつたか？			どうして彼は喫煙家になつたか？	どうして彼は喫煙家になつたか？
MOON SHINE			A MOONSHINE	A MOONSHINE
終詞	終詞		終詞	終詞
予告				